

## 30年10月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 10月1日～ 30年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## 素材生産動向

品目		30/10月	11月	12月
伐採動向	スギ	△ 8.3	16.7	△ 8.3
	ヒノキ	△ 83.3	△ 66.7	△ 66.7
	カラマツ	25.0	25.0	△ 12.5
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	10.0	30.0	10.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ	25.0	25.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	20.0	△ 10.0	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	16.7	0.0	△ 33.3
	エゾ・トド	33.3	0.0	0.0

・スギの伐採動向は10月の減少から11月は増加、12月は再び減少に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは10月、11月の増加から12月は減少に。エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。

・スギの出荷・販売動向は3カ月連続増加。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは10月、11月の増加から12月は横ばいに。エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。

・スギの手持立木在庫動向は10月の増加から11月は減少、12月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは10月の増加から11月は横ばい、12月は減少に。エゾ・トドは10月の増加から11月、12月は横ばいに。

## モニターからのコメント

## (伐採動向)

- ・国有林の素材生産請負事業でカラマツ間伐を実行中。伐採は順調に推移しており伐採動向は横ばい(北海道)。
- ・国有林の素材生産請負事業でエゾ、トドの伐採を継続中(北海道)。
- ・スギ、カラマツともに伐採は積極的(東北)。
- ・利用間伐でカラマツを伐採中(東北)。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施、カラマツはなし(中国)。
- ・夏の災害の影響で全体的に出材が減っている(中国)。
- ・台風の影響で風倒木が発生。周囲の立木を伐るための伐採が増加(九州)。

## (出材・販売動向)

- ・一般流通材が少ないため、出材・販売動向は順調に推移している。カラマツの出材・販売動向は横ばいである(北海道)。
- ・出材・販売動向はスギ横ばい、ヒノキ減少、カラマツやや増加。カラマツパルプ材にストックあり(東北)。
- ・スギ、カラマツともに強気の販売(東北)。
- ・特別市売に合わせ良材中心の出荷となり、通常の高性能機械を使用した間伐材の出荷が減少している(中国)。
- ・韓国へヒノキを輸出(中国)。

## (手持ち立木在庫)

- ・立木公売でトドマツを落札したので、手持ち立木在庫は増加している(北海道)。
- ・請負事業実施中のため在庫に変動はない(北海道)。
- ・スギ、カラマツとも手持ち立木の買入も積極的(東北)。